

研究課題	高齢者に対するリハビリテーション実施時における主観的疲労度評価の再現性と妥当性に関する研究
支援番号	G C00220122
研究事業期間	平成24年4月1日から平成26年3月31日
助成金総額	1,000,000円
研究代表者 (所属機関)	能村 友紀 (新潟医療福祉大学)
研究分担者 (所属機関)	渡邊 良弘 (新潟医療福祉大学)
研究キーワード	高齢者、疲労、再現性、妥当性
研究実績 の概要	<p>医療保健福祉現場における高齢者のリハビリテーションでは、疲労に対するリスク管理は高齢者自身の主観的な訴えに基づいて実施することが多く、これまでリハビリテーション実施時における主観的疲労感の再現性や妥当性を検証した報告は少ないのが現状である。</p> <p>本研究は、高齢者に対するリハビリテーション実施時における主観的疲労度評価の再現性と妥当性を確認することを目的に、1)主観的疲労感の日内再現性と日間再現性および妥当性、2)リハビリテーション実施前後における主観的疲労感の再現性と妥当性の2つを検証することを目的とした。</p> <p>研究1では、介護保険通所サービスを利用して自立歩行が可能である高齢者26名を対象とし、日本疲労学会抗疲労臨床評価ガイドラインに基づいて主観的疲労について Visual Analogue Scale (疲労 VAS) を測定した。妥当性の検証として日本語版 POMS 短縮版の下位項目の疲労 (Fatigue) を用いた。主観的疲労感と POMS (疲労) は、同日の午前と午後および1週間後の午後に測定した。その結果、疲労 VAS の級内相関係数では、日内と日間ともに良好な再現性が認められた。Bland-Altman 分析では、日間変動に比べて日内変動が大きい傾向が認められた。疲労 VAS と POMS (疲労) は、良好な基準連関妥当性が認められた。これらのことから、午前と午後で疲労の感じ方が異なる可能性があることが示唆された。</p> <p>研究2では、介護保険通所サービスを利用して自立歩行が可能である高齢者15名を対象とし、疲労 VAS、POMS (疲労)、加速度脈波、唾液アミラーゼを、運動負荷前後 (安静時、リハ後、リハ後10分) に測定した。その結果、運動負荷前後の疲労 VAS の変化は、疲労 VAS と加速度脈波値と同様な傾向が認められた。運動負荷前後の疲労 VAS と POMS (疲労) の相関から基準連関妥当性が確認された。これらのことから、運動負荷時における主観的疲労度評価の再現性と妥当性が確認された。</p> <p>本研究の結果から、これまで曖昧にされてきたリハビリテーション実施時における主観的疲労感は高齢者の疲労の程度を評価判定するに値することが把握された。医療機関や介護保険施設でのリハビリテーションにおける疲労評価と疲労改善の効果判定の一助となると考えられる。</p>